

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

学校名	伊万里市立 黒川小学校
-----	-------------

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	○「自学ノート」の活用方法を工夫した家庭学習の充実を図る。○地域の人材や1人1台タブレットを効果的に活用した学習活動の充実を図る【学力向上】 ○事前の連絡や提示の工夫による業務改善を図る。【業務改善・教職員の働き方改革の推進】 ○保護者の立場に立った早めの情報発信を行う。【開かれた学校づくり】 ○就学指導や校内研修の計画的に実施する。【特別支援教育の充実】 ○土砂災害等に備えた避難訓練と防災教育の充実を図る。○【危機管理】
------------------	---

2 学校教育目標	黒川大好き、なかよく頑張る ～ 郷土を愛し、周りの人を大切にする心豊かな子供の育成をめざして ～
----------	--

3 本年度の重点目標	(1) 個に応じた指導の充実とGIGAスクールへの着手 (2) 家庭学習の充実とキャリア教育の推進 (3) 健康管理や危機回避能力の育成
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上を目指す。	・学力向上対策評価シートを使った校内研修を行う。 ・GIGAスクール(1人1台タブレットの活用等)に着手する。	B	・9月に実施したアンケートで、「授業が分かる」と回答した児童は82%だった。のびのびタイムの有効活用や家庭学習の工夫で、90%を目指す。 ・様々な授業でタブレットを活用し、児童も扱いに慣れてきた。タブレットの活用方法を研修会等で共有できるようにしたい。	B	・10月1月に学力向上に関する職員研修を行い、課題である「自分の考えを書いたり伝えたりする力」を伸ばすための手立てを話し合った。 ・1月に実施したアンケートでは、「授業が分かる」と回答した児童は85%で、目標を達成することができなかったが、9月より増えた。 ・授業で児童がタブレットを活用する機会が増えた。さらに、活用例や使えるアプリなどの情報を共有し、児童の学習への理解や効果を高めたい。	A	・「授業が分かる」と回答した児童が85%はよいと思います。さらなる授業の改善をお願いします。 ・「授業が分かる」＝「正確に解くことができる」とは限らないので、学力アップにつながる数値を出すのがわかりやすい。	学力向上コーディネーター
	○家庭学習の充実	○「家庭学習ができて」と答える保護者が80%以上を目指す。 ○「自学ノートの取組ができた」と答える児童が上学年で80%以上を目指す。	・「家庭学習の手引書」を活用し、保護者の学習への関心を高める。 ・4年生以上では「自学ノート」に取り組み、学年や学年間で取組の交流を行い、意欲を高める。	A	・4年生以上では、週末自学ノートに取り組み、それぞれ興味のあることを調べたり、苦手なことに取り組みだした。2学期からは、青嶺中学校区で「スタディーウィーク」を設定し、中学校区で一斉に学習にしっかり取り組むこととした。	B	・1月の保護者アンケートでは「家庭学習の習慣が身につけている」と回答した保護者は70%にとどまり、決まった時間に進んで学習に向かう習慣がついていないとが伺える。 ・中学校区での取組「スタディーウィーク」では、「約束を意図して学習に学習で取り組むことができた」と、児童からも保護者からも好評であった。引き続き取り組んでいきたい。	B	・家庭学習の習慣とともに、学習内容の質の向上がさらにできるとよいと思う。 ・学習に取り組む総時間がどのくらいかで判断するとよい。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「地域であいさつをしている」と答える児童が90%を目指す。 ○「心の教育3点セットを活用した」と答える職員が80%以上を目指す。	・「地域であいさつ」を年5回行い、児童の人権意識を全員高める。 ・「心の教育3点セット」の活用を推進する。 ・「道徳年計画並びに関連表(別添)」を活用し、道徳の授業を活性化させる。	B	・地域の方へのあいさつができていない児童は85%ではあるが、来校者へのあいさつにはまだ課題がある。 ・心の広場を年間5回行い、全職員、全校児童が参加していることにより、共通の人権意識を育てることができている。 ・「心の教育3点セット」のうち、「伊万里っ子くさき」は朝の会で必ず使用し、全員で唱えている。	A	・地域であいさつができていない児童は91%であるが、地域の方や来校者に挨拶をされても返すことができない児童もいる。 ・心の広場を年間5回行い、全職員、全校児童が参加していることにより、共通の人権意識を育てることができている。 ・「心の教育3点セット」のうち、「伊万里っ子くさき」は朝の会で必ず使用し、全員で唱えている。	A	・人権意識を高めるためのグループワークトレーニング等の活動をさらに進めることも必要だと思ふ。 ・挨拶は「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」の言葉を口にするだけでなく、挨拶を交わすことができる心が通い合うきっかけになると思ふ。	人権・間和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校が楽しい」と感じる児童が90%以上を目指す。 ○「早期発見・早期対応ができて」と答える職員90%以上を目指す。	・報告・連絡・相談の徹底と組織的な対応を行うよう共通理解を図る。 ・「学校生活アンケート」を年6回実施する。 ・「教育相談週間」を学期に実施する。 ・「教育相談連絡会」及び「職員連絡会」で配慮を要する児童についての手立て等を共通理解を行う。 ・SC及びSSWとの連携を図り、情報交換を行う。	A	・夏季休業中に「いじめ防止対策」の研修を行い、報告・連絡・相談の徹底を図った。 ・「学校生活アンケート」を予定どおり行っている。 ・「学校が楽しい」と感じる児童は、83%であった。 ・「早期発見・早期対応ができて」と答えた職員は100%であった。 ・SCやSSWと連携し、保護者との面談や医療機関の紹介を行った。	A	・2回目のアンケートで「学校が楽しい」と感じている児童は85%で90%には届かなかった。 ・「早期発見・早期対応ができて」と回答した職員は100%で、組織的な対応が維持できている。 ・「他の職員やSCと連携して指導を行っている」と回答した職員は89%であった。 ・「教育相談担当が保護者とSCやSSWとつないで、面談を積極的に入れていく。	A	・「学校が楽しい」と感じる児童が増えるよう引き続き指導と見守りをお願いします。 ・いじめの事実は児童からも聞いていないので、適切な対応をしていただいていると感じる。	教頭・教育相談担当
●健康・体づくり	◎自分のよさや友達とのよさに気づき、認め合い進んで活動する児童の育成	○「自分には良いところがある」と答える児童が80%以上を目指す。 ○「友達の良いところを知っている」と答える児童が95%以上を目指す。	・特別活動(学級会)を校内研究で取り組み、話し合い、実践、振り返りの一連の活動を通して児童の自己肯定感を高める。 ・キャリアパスポートを活用し、自己のめあてを持って生活し、振り返ることのできる児童を育てる。	B	・児童へのアンケートでは「自分には良いところがある」と答えた児童が70%程度にとどまっているため、自己肯定感を高めるための手立てが必要である。 ・行事ごとに自己のめあてを設定して振り返りを行っている。次のめあてを持つこともできている。	A	・児童へのアンケートで「自分には良いところがある」と答えた児童が83%と目標を達成できなかった。 ・各クラスでの学級会や一連の活動での振り返り等の活動を大切にしていることが結果につながったと考えられる。 ・授業や行事のめあてを立て、振り返りを行い、キャリアパスポートへ記録することで、児童が成長を感じることができている。	A	・黒川小の児童は控えめな子どもが多いと聞いていましたが、積極的になる。 ・自己肯定感が高く、友達の良いところを認めることができる児童の育成ができていく。	研究主任 特別活動主任
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力」の育成	○朝食を摂る児童95%以上を目指す。 ○昼休みに外遊びをしている児童85%を目指す。 ○体力向上のために計画的な場作りや多様な遊びの紹介を行い、進んで運動に親しむ児童の育成を図る。	・栄養士や学校医と連携し、発達段階に応じた食育指導を実施する。 ・外遊びの良さを伝え、声かけをする。 ・県のスポーツチャレンジを各学年級に紹介し取組を奨励する。	B	・毎日、朝食を摂ると答えた児童が92%と、目標に届いていない。朝ご飯の意義や重要性を全校に伝える取組を行うことで、改善させる。 ・暑い日が続く、外で遊んでいると答えた児童が68%にとどまった。全校が外に出る日を設けるなどして、外遊びを増やしていきたい。	B	・児童アンケートで、「毎日、朝食を食べている」が93%と目標に近づきつつある。意義や重要性を全校に伝える取組が必要である。 ・スポーツチャレンジのA,B両区分で全学年が参加できた。 ・各学年で外で遊ぶ日を決めて取り組んでいるが、目標に達していないため、別の方策を検討する必要がある。	B	・「外遊びをしている」と回答した児童が目標に達していないので、進んで運動に親しむ児童の育成に努めてほしい。 ・健康と体力向上のため、毎日、朝食をとること、外遊びは大変なことだと思う。	保健体育部長
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録の正確な記録を毎月職員に依頼する。 ・定時退勤日、退勤目標時刻を設定し、行事黒板に提示する。 ・職員会議において、校務分掌の計画と役割分担を明確化し、確認する。	B	・定時退勤日、退勤目標時刻を行事黒板に提示することはできた。 ・職員会議では、協議事項に時間をかけ、連絡事項には時間をかけないようになっている。全員で取り組むべき作業等を確認した。 ・8月までの1月当たりの超過勤務時間は昨年の同じ時期より6時間弱増えている。	A	・定時退勤日、退勤目標時刻を行事黒板に提示することを継続している。 ・職員アンケートの「各部署や校務分掌等の業務進捗情報を共有し、職員間の協働性が高まっている。」の項目に対し、全員が概ね満足しているに回答した。 ・職員会議で協議し、全員で作業に取り組むことが定着している。 ・4月～7月の時間外勤務時間の平均が1月当たり3時間であったのが、9月～12月は2.5時間へ減少した。	A	・時間外在校時間の上限が示されていないので達成しているのかどうか分からない。 ・時間外勤務時間が減少しているのはよいと思うが、自宅での仕事が増えているのかは危惧する。	教頭
	○カリキュラムの見直し及び行事の精選	○年に2回カリキュラムの見直し、行事の検討を行う。	・教科の横断、地域人材活用、職員の負担軽減について検討する職員研修を行う。	A	・夏休みにカリキュラムの見直しを行った。また、大きな行事に向けての準備等で、各教科の学習を生かすことで、時間的な負担も軽減できた。	A	・学校行事を教科と関連付けたり、取組の内容を精選したりすることで、児童や担任、授業への負担を減らすよう工夫を行った。 ・年度末には、来年度に向け1年間の振り返りとカリキュラムの見直しを行う。	A	・その都度見直しを工夫されているが、教職員の働き方改革は遅れているように思ふ。担任の授業への負担が軽減されたようになっているが、持ち帰りの比率はどのくらいか心配している。 ・職員の数増を限り、学校全体がゆとりのある学校を目指してもらいたい。	教務主任

重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○学校情報の公開 ○学校行事・授業参観の充実 ○コミュニティスクールの体制づくり	○翌月の月行事を月の中旬までに保護者に知らせる。 ○授業参観、学校行事への参加率90%以上(独自アンケート)を目指す。 ○小・小連携で児童同士が交流する機会を年に1回設定する。	・教務主任に依頼して、保護者向け月行事をプリントで毎月配布することができた。また、主な月行事をHPのカレンダーに掲載することができた。 ・月行事をHP上に掲示する。 ・学校安心メールに必要な情報を配信する。 ・中学校入学後、スムーズに人間関係を形成できるように、6年生同士の交流を行う。	A	・保護者向けの月行事をプリントで毎月配布することができた。また、主な月行事をHPのカレンダーに掲載することができた。 ・「学校安心メール」を保護者の目線に立て配信している。 ・6月の「ふれあい道徳」の授業参観の参加率は84%であった。 ・小・小連携に向けた担当者会を夏季休業中に行った。	A	・保護者アンケートの「学校は、学校だよりや学級だより、月行事、学校メール等で情報を伝えている。」の項目に対し、あてはまる回答が97%であった。 ・11月に、波多津小と6年生同士のオンライン交流を実施した。2月に2回目のオンライン交流を計画し、実施できた。他の学年に交流を広げていきたい。	A	・コロナ禍の中、実施できなかったものもあると思ふますが、地域の人材、地域のコミュニティーとの連携ができています。 ・授業参観は、6月の84%が秋の参観では92%以上がっているのよかったです。 ・児童のオンライン交流は全学年でできるといいと思う。	教頭
	○特別支援教育の充実	○個に応じた指導の充実 ○就学指導及び校内研修の計画的な実施 ○講師を招聘した校内研修を行う。	○「個別の支援計画」の有効活用を進める。 ○教育相談連絡会、校内研修での共通理解を図る。 ○夏季休業中に講師を招聘した研修会を行う。	A	・年間計画に沿って、校内就学支援委員会や教育相談連絡会ができた。 ・講師を招聘し、具体的な支援のあり方について学び、実践に生かすことができた。	A	・定期的に教育相談連絡会を開くことによって、学校全体で支援が必要な児童の共通理解を図り、その都度支援体制を考えた。また、児童の実態に応じて就学支援委員会を開き、WISGの活用や支援の方法について考えた。	A	・定期的に実施されている様子が見えます。学校全体で支援していただいているようで安心している。	特別支援教育コーディネーター
○安全指導及び防災教育の充実	○保護者引き渡し訓練及び各種避難訓練の実施 ○「安全に関する資質・危機回避能力の育成」	○年1回保護者引き渡し訓練を実施する。 ○年4回の避難訓練での防災教育を行う。 ○児童の交通事故を0にする。 ○10件以上の「こども110番の家」を確保すること、地域の防災意識向上へとつなげる。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者引き渡し訓練は中止となった。職員によるシミュレーション訓練を行った。 ・地区児童会及び集団下校前に行う下校班指導を行った。 ・1年生は、横断歩道の渡り方や歩道の通り方等の交通安全教室を行った。 ・7月の青少年会役員会において生活指導委員で分担し、「こども110番の家」の商店や役員宅等13か所に依頼をした。今後、定期的に確認し、必要箇所依頼をして取組を広げたい。	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者引き渡し訓練は中止となった。職員によるシミュレーション訓練を行った。 ・地区児童会及び集団下校前に行う下校班指導を行った。 ・1年生は、横断歩道の渡り方や歩道の通り方等の交通安全教室を行った。 ・7月の青少年会役員会において生活指導委員で分担し、「こども110番の家」の商店や役員宅等13か所に依頼をした。今後、定期的に確認し、必要箇所依頼をして取組を広げたい。	A	・11月に急な激しい雨、落雷の恐れのため、実際に保護者引き渡しを行った。保護者確認やカードとの照合に時間がかかり、役割分担の見直し等改善すべき点が多かった。 ・11月に市防災危機管理課や警察、バス会社の協力を得て、「1、2年生交通安全教室」を実施した。 ・「こども110番」ステッカーに加えて、市浦2配布の「こども110番の家」のぼり旗設置を地域に依頼した。12月の役員会で5か所配布する段取りをし、3月までにさらに5か所に依頼をして、合計11か所設置を目指すことを確認した。	A	・黒川町は車の通行量が多いところなので、安全対策をしっかりと行っており、解決策もすぐに検討されていいと思う。 ・1、2年生の交通安全教室の実施がありがたかった。	生活部部長

●...県共通 ○...学校独自 ●...志を高める教育	<p>★総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標となる数値が目標を達成している項目、「授業が分かる(学力向上)」や「学校が楽しい(いじめの早期発見、早期対応の体制)」等についての学校の取組は学校関係者からもよい評価を得られた。 ・「外遊び」を推奨して健康と体力の向上を図ることや、時間外在校時間の短縮だけでなく持ち帰りの仕事を含めた働き方改革の必要性を学校関係者から提言された。 <p>★次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分る授業「黒川スタイル」の確立とタブレットの有効活用による授業改善を全職員で。特に算数科の校内研究を進め、あわせて若手教員の授業力向上にも役立てる。 ・青嶺中学校区での「スタディーウィーク」についての共通理解を深め、取組を推進して家庭学習の内容や学習の質の向上を図る。 ・学校サポーター関係の行事や体験活動を年間計画や教育課程に位置づけ、学校サポーターとのつながりを深めて学びの充実を図る。 ・「地域とつながる学校づくり」を推進し、幼・小・中・地域との連携を強め、新たな取組を実践していく。波多津小とのオンライン交流を全学年実施に広げていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革を推進し、職員の多忙感を軽減する。 ・外遊びの推奨を中心に健康と体力の向上を図る。
------------------------------	---